

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
令和7年4月18日



白尾徳海

野母佳澄

三浦健太郎

ごあいさつ

下関市教育委員会では、左記の3人を中心として、指導主事（13人）と社会教育主事（2人）の15人全員で地域連携教育を推進していきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

下関市地域連携教育のキーワード「参加とともに参画」

下関市の地域連携教育では、キーワード「参加とともに参画」することを通して、子どもの自己有用感を高めることを目指しています。また、地域連携教育の充実に向けて、以下の3つの柱に取り組んでいます。

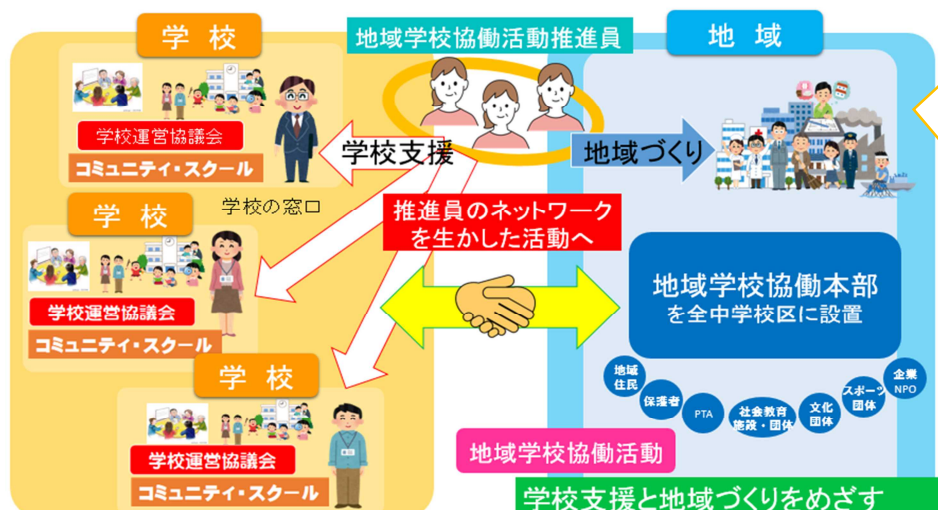
1つ目は、学校・地域連携カリキュラムの作成・活用・見直しです。

2つ目は、学校の課題解決に向けた児童・生徒や地域住民を交えた話し合い（熟議）です。

3つ目は、地域学校協働活動推進員のコーディネートによる多様な活動の推進です。

参加とは、子どもが行事や活動に加わることであり、参画とは、行事や活動の計画や運営の一部や全体に子どもが加わることを意味しています。昨年、各校の地域連携教育担当教員と地域学校協働活動推進員が集まる研修会では、各中学校区の「学校・地域連携カリキュラム」を持ち寄り、「今ある行事や活動の中で子どもたちに参加または参画させる余地はないか」話し合いました。話し合ってみると、「ここは子どもたちに任せることが出来るのではないか」「この活動は、こっちにもってきた方がよいのではないか」等、様々な意見が出ました。

「学校・地域連携カリキュラム」は、羅針盤のように方向性やゴールを確認したり、工程表のように年間を見通しながら教育活動を進めたりするのに役立ちます。ぜひ学校運営協議会、地域学校協働本部の会議等で学校・地域連携カリキュラムを広げていただき、一年間の方向性や見通しを確認していただけたらと思います。



令和4年度から、市内65校のコミュニティ・スクールで、「地域学校協働活動推進員」さんが、学校と地域をつなぐ橋渡し役を担ってくださっています。皆さんの学校の推進員は、どなたですか？！